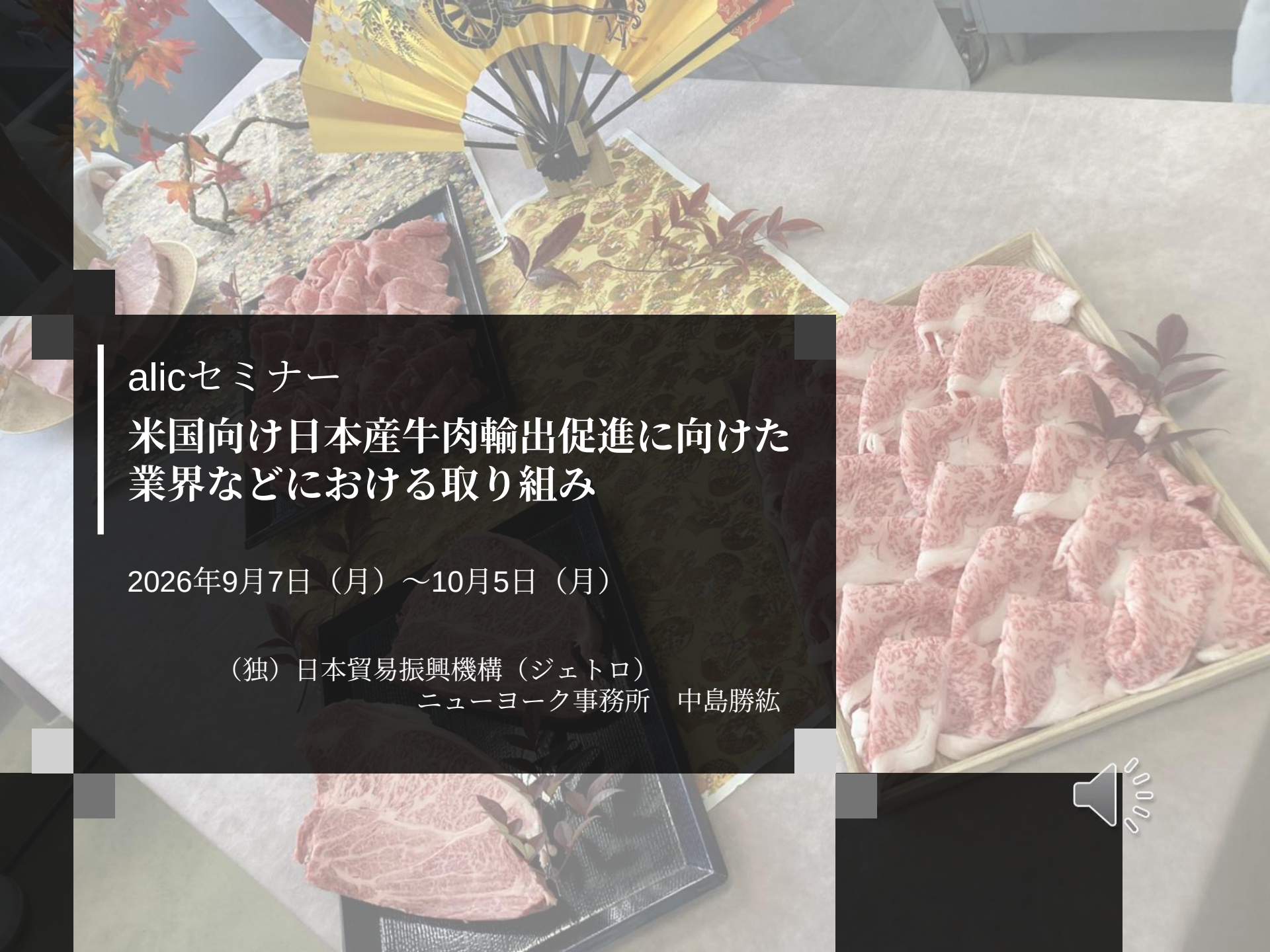




alicセミナー

米国向け日本産牛肉輸出促進に向けた 業界などにおける取り組み

2026年9月7日（月）～10月5日（月）

（独）日本貿易振興機構（ジェトロ）
ニューヨーク事務所 中島勝紘



alicセミナー受講にあたっての注意事項

- 本セミナーをお申込みいただいた方以外へのURLの転送はご遠慮ください。
- 録画、録音、資料印刷等の保存行為につきましてはご遠慮ください。
- YouTubeの動画視聴に関する技術的なご質問にはお答えできかねますので、ご了承ください。
- ご登録いただいたアドレスは、alicセミナーの開催以外の目的で利用いたしません。
- セミナー後は、アンケートにご協力をお願いします。
下記URLのアンケートフォームからご回答ください。

<https://www.alic.go.jp/consumer/foods/event.html>



セミナーの流れ

01 米国における牛肉の生産・消費動向

02 日本産牛肉の米国内での流通および課題

- ① 日本産牛肉の米国への輸入状況
- ② 商流拡大に向けた課題
- ③ 関係機関および業界の取組

03 Japanese Wagyu Partnersの立ち上げと、米国内での活動について

04 今後の展望・活動の方向性

05 おわりに・御案内



01 米国における牛肉の生産・消費動向



01 米国における牛肉の生産・消費動向

- ・ 米国は牛肉の生産、消費共に世界最大級。牛肉生産量は2025年にブラジルに次ぐ世界第2位となったが、消費数量は世界1位のままとっている。
- ・ 牛肉生産は米国にとって重要な産業であり、消費の観点においても牛肉文化は非常に強く根付いている。

牛肉生産量上位10か国・地域（万トン）

順位	国・地域	2022年	23年	24年	25年
1	ブラジル	1,035	1,095	1,185	1,261
2	米国	1,289	1,229	1,229	1,184
3	中国	718	753	779	801
4	EU	672	646	666	641
5	インド	435	447	457	468
6	アルゼンチン	314	328	318	315
7	豪州	188	222	258	289
8	メキシコ	218	222	226	217
9	ロシア	135	137	144	141
10	カナダ	141	133	130	126

牛肉消費量上位10か国・地域（万トン）

順位	国・地域	2022年	23年	24年	25年
1	米国	1,280	1,264	1,305	1,316
2	中国	1,066	1,109	1,152	1,164
3	ブラジル	752	811	827	827
4	EU	647	620	638	628
5	インド	291	292	304	299
6	アルゼンチン	242	251	234	240
7	メキシコ	195	208	220	219
8	ロシア	160	159	169	169
9	日本	123	123	121	118
10	英国	116	114	118	114

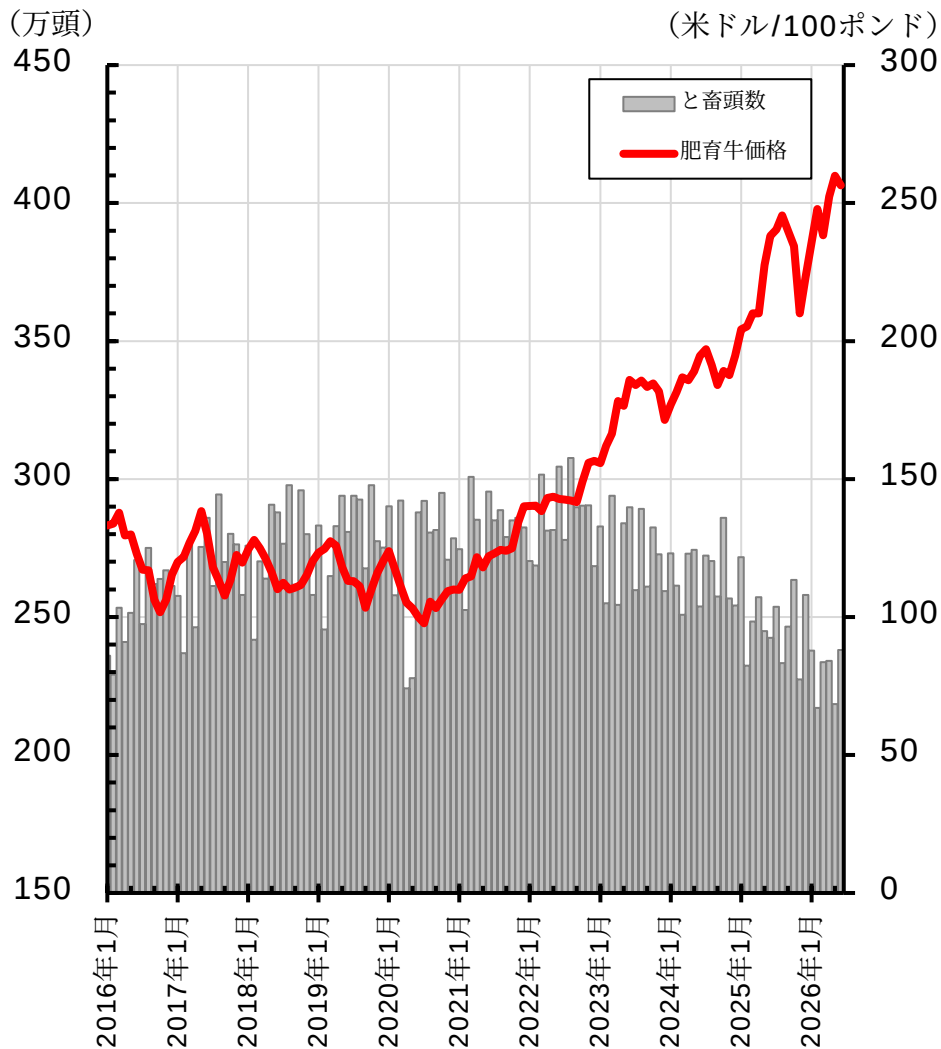
資料：米国農務省海外農業局USDA/FAS「PSD」



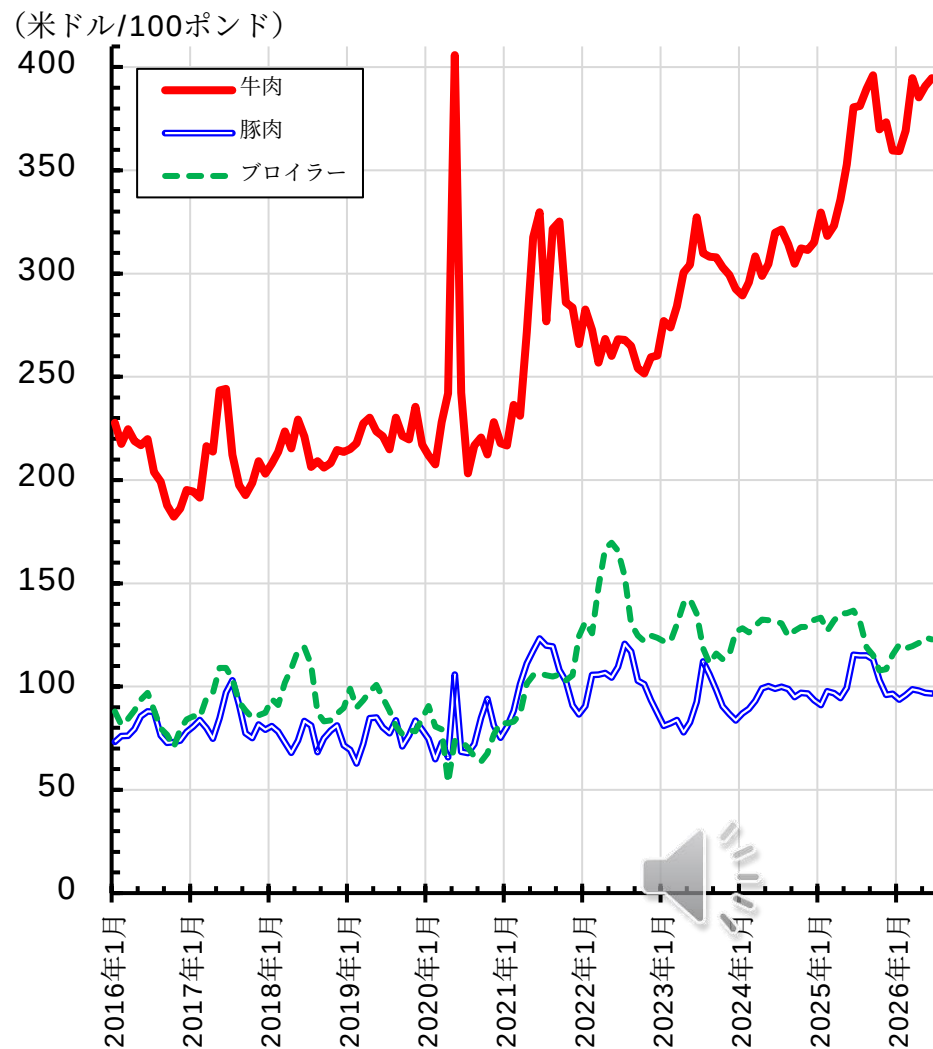
01 米国における牛肉の生産・消費動向

- ・ 米国は世界最大級の牛肉生産国であるが、2022年に発生した大規模な干ばつの影響により肉用牛の飼養頭数が減少。
- ・ と畜頭数の減少及び肥育牛価格の高騰も急速に進展しており、豚肉や鶏肉（ブロイラー）の価格と比較して牛肉価格は急速に高騰し推移している。

米国におけると畜頭数と肥育牛価格の推移



米国における牛肉、豚肉、鶏肉の卸売価格の推移

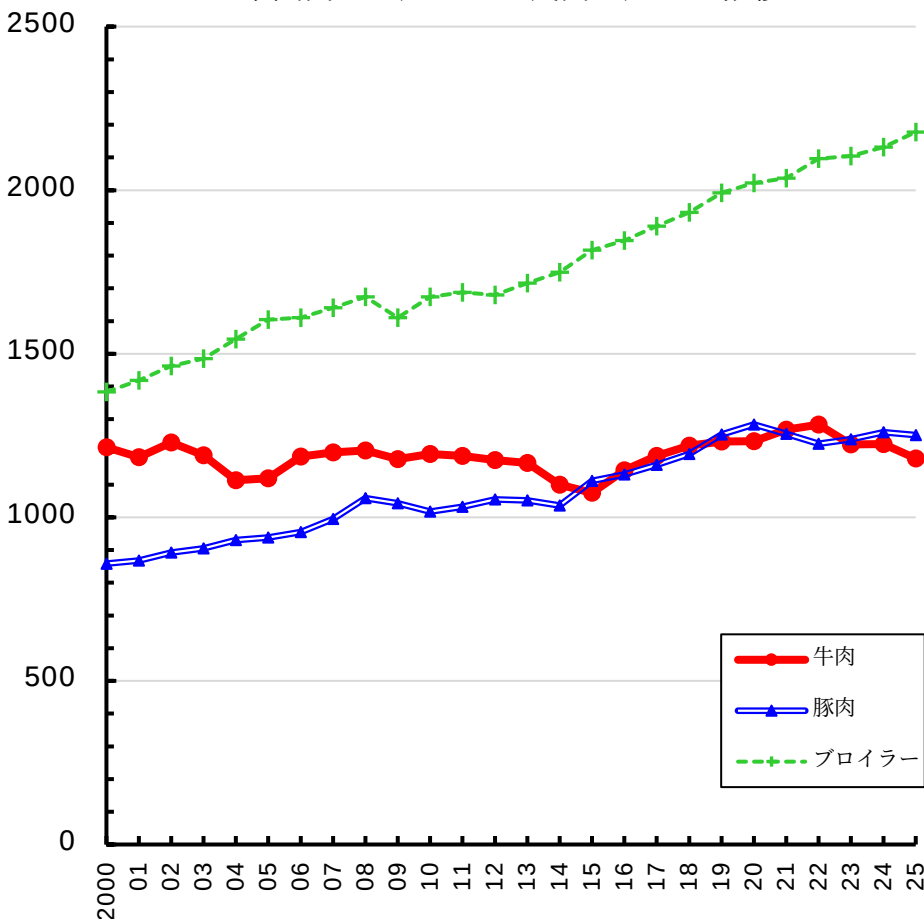


01 米国における牛肉の生産・消費動向

- ・ 米国においては、牛肉に代わり豚肉及びブロイラーの生産量が増加している。消費量については牛肉価格の高騰やブロイラー消費量が増加している中でも牛肉消費量は堅調に推移している。
- ・ 消費者は、インフレが継続し家計が圧迫される中においても食肉を優先して購入している。その中でも家庭内消費向けの日常的な購入では価格が重視される一方、特別な機会ではレストランでの消費を含めよりぜいたくな商品が消費される傾向が強まっており、低価格帯の商品とぜいたく品が併存する二極化市場が形成されている。
- ・ ぜいたく品としては特に牛肉が消費される傾向が強く、米国産の牛肉の中でもプライム級やチョイス級のような脂肪交雑が多いものの需要が高まっている。

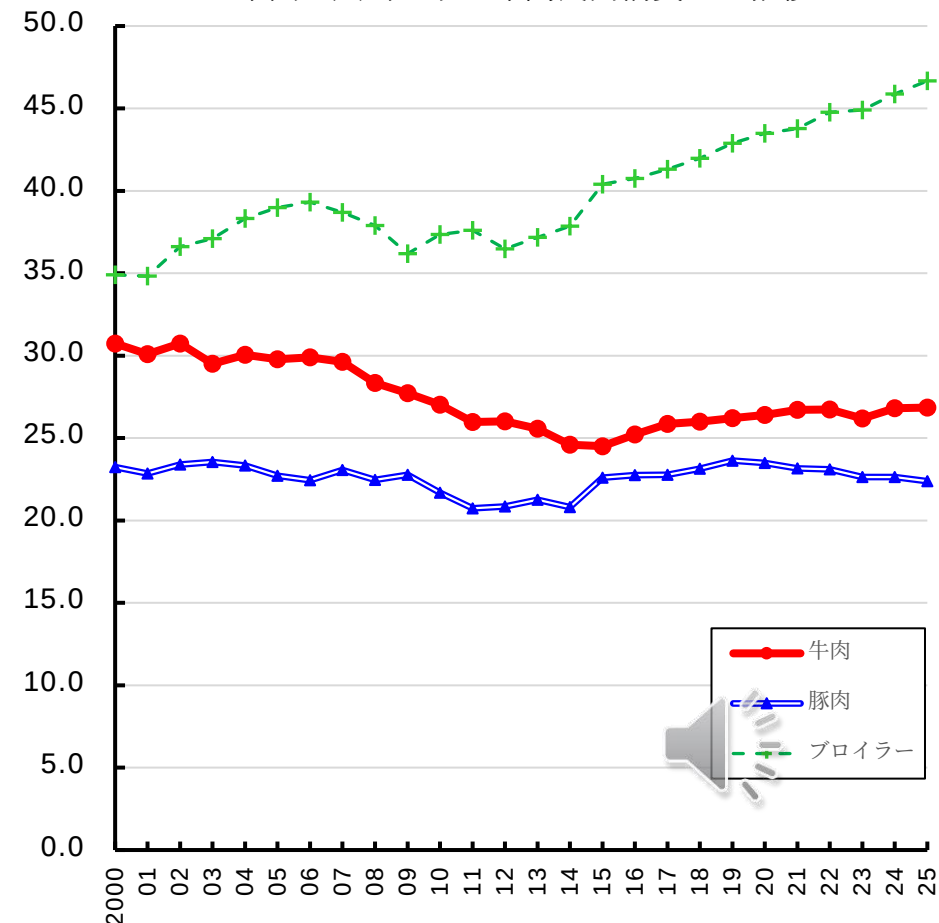
(万トン)

米国内で生産される食肉生産量の推移



(キログラム)

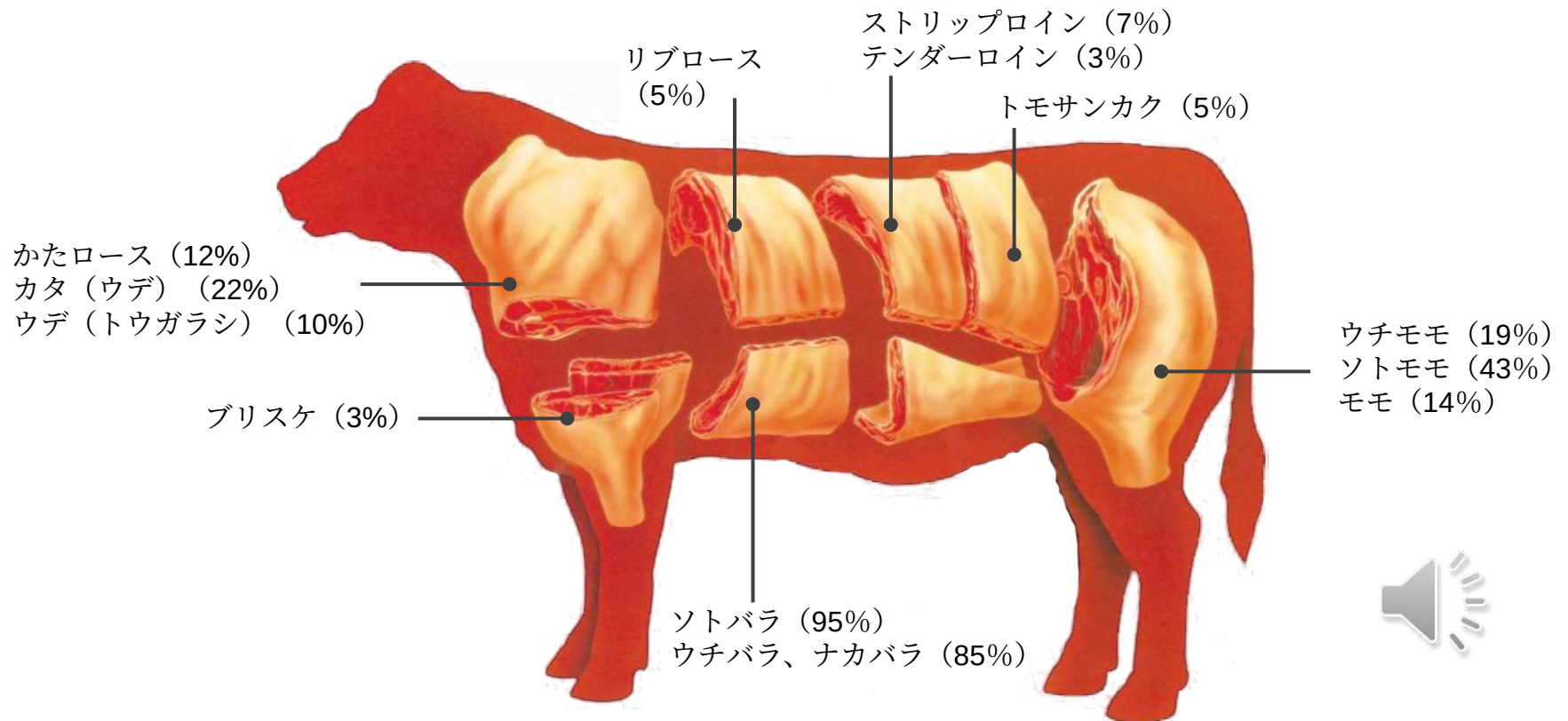
米国一人当たりの年間食肉消費量の推移



01 米国における牛肉の生産・消費動向

- 米国では、ステーキ、バーベキュー、ハンバーガーによる牛肉の消費が多い。ステーキによく使われる部位について、ロイン系部位としてはストリップロイン、リブローズ、テンダーロイン、非ロイン系部位としては肩ロース（デンバースステーキ）、トモサンカク、イチボ（ピカーニャ）が中心となっている。
- バーベキューにおいては、調理する際に大きくとれる部位であるブリスケが特に夏季に人気となっている。
- そのほか、ハンバーガー（パティ）や挽肉材として、トリミング材に加えその他の部位を活用している。かたやバラ、モモなどの部位は他国・地域へ輸出することに加え、米国内でも挽肉以外の活用方法をプロモーションすることにより、牛一頭当たりの付加価値を高めている。

（参考）米国産牛肉の部位別輸出割合（2022年）

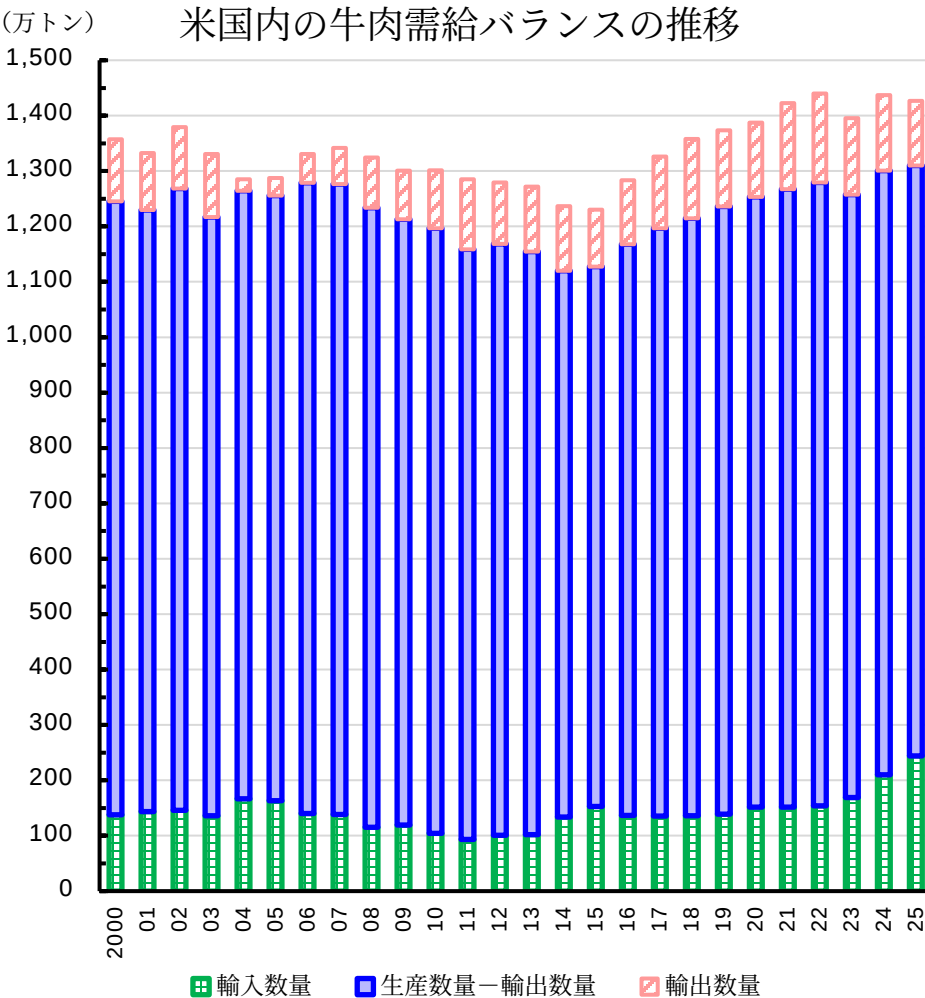


資料：米国食肉輸出連合会（USMEF）

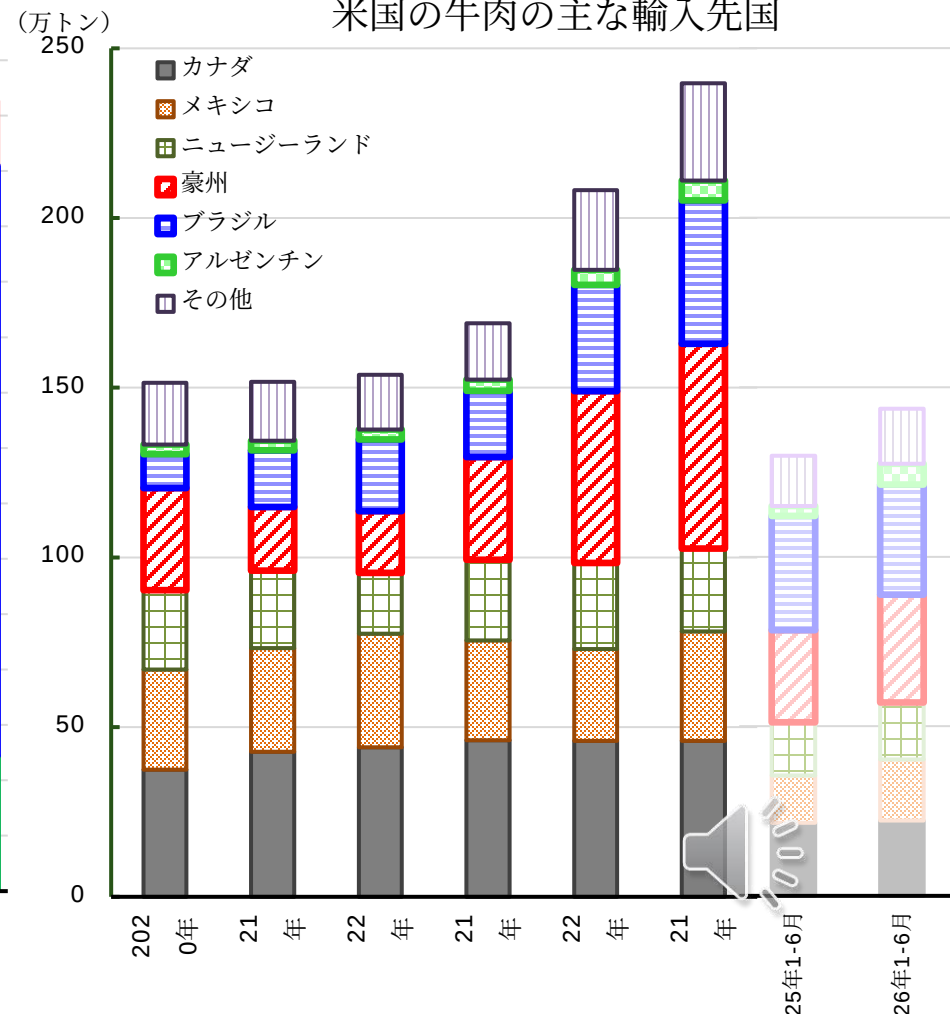
01 米国における牛肉の生産・消費動向

- 米国における牛肉生産の減少と価格の高騰により消費市場は二極化しており、低価格帯の商品として挽肉の需要が増加している。一方で、現在米国において挽肉の主な材料となるトリミング材は脂肪分が多く、単独で商品に加工することができない。そのため、米国ではステーキ等の牛肉需要を満たすとともに挽肉の材料として必要な赤身を中心としたトリミング材の需要を満たすため、牛肉輸入量が増加している。
- 現在、カナダ及びメキシコといった近隣国以外に豪州及びブラジルからの牛肉の輸入が拡大している。

米国内の牛肉需給バランスの推移



米国の牛肉の主な輸入先国



資料：USDA/ERS「Livestock and Meat Domestic Data」「Livestock and Meat International Trade Data」

注：枝肉重量ベース

01 米国における牛肉の生産・消費動向

(参考) 米国のステーキおよびハンバーガーの販売例



2種類のロイン系部位を含むTボーンステーキ
(ニューヨーク州内ステーキハウス)



味付けを自分で調整できるハンバーガー
(カリフォルニア州内レストラン)

<米国におけるタンパク質需要全体へ影響を与える要因>

- ・ 米国では健康志向やグルカゴン様ペプチド薬GLP-1の肥満治療薬としての普及が、消費者の食習慣に対して影響をもたらしている。
- ・ GLP-1利用者は食事で摂取する食品の総量が減少する一方で、筋肉量維持のためタンパク質摂取を重視する傾向があり、食肉を含む高タンパク食品の需要が拡大している。また、総食料支出は減少する可能性があるものの、外食での高品質な食肉や魚介類への支出は増加する傾向がみられ、少量・高付加価値商品の需要拡大が見込まれている。

01 米国における牛肉の生産・消費動向

(参考) 牛肉のドライエイジング処理



世界最大級のドライエイジング施設内部（ニュージャージー州内Pat LaFrieda Meat Purveyors社）。施設において倉庫内を2℃前後に維持し通気しながら牛肉を維持し、30～120日間程度熟成を行う。



01 米国における牛肉の生産・消費動向

(参考) 米国の小売店における牛肉（米国産含む）の販売状況



薄切りされた状態で販売される牛肉
(ニューヨーク州内大型量販店)



夏季にバーベキュー用に販売されるブリスケ
(ニューヨーク州内大型量販店)



精肉販売コーナーで販売されるロイン系とセカンダリーカット
(コロラド州内スーパーマーケット)



一般的な挽肉の隣に陳列されるパティ
(コロラド州内スーパーマーケット)

02 日本産牛肉の米国内での流通および課題

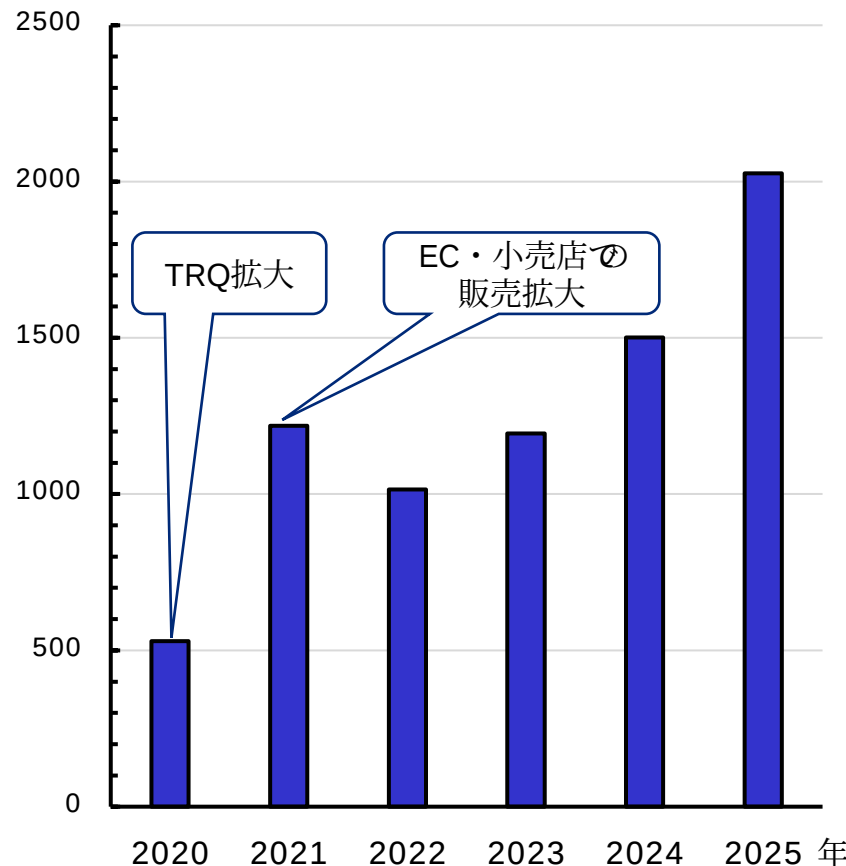


02 日本産牛肉の米国内での流通および課題

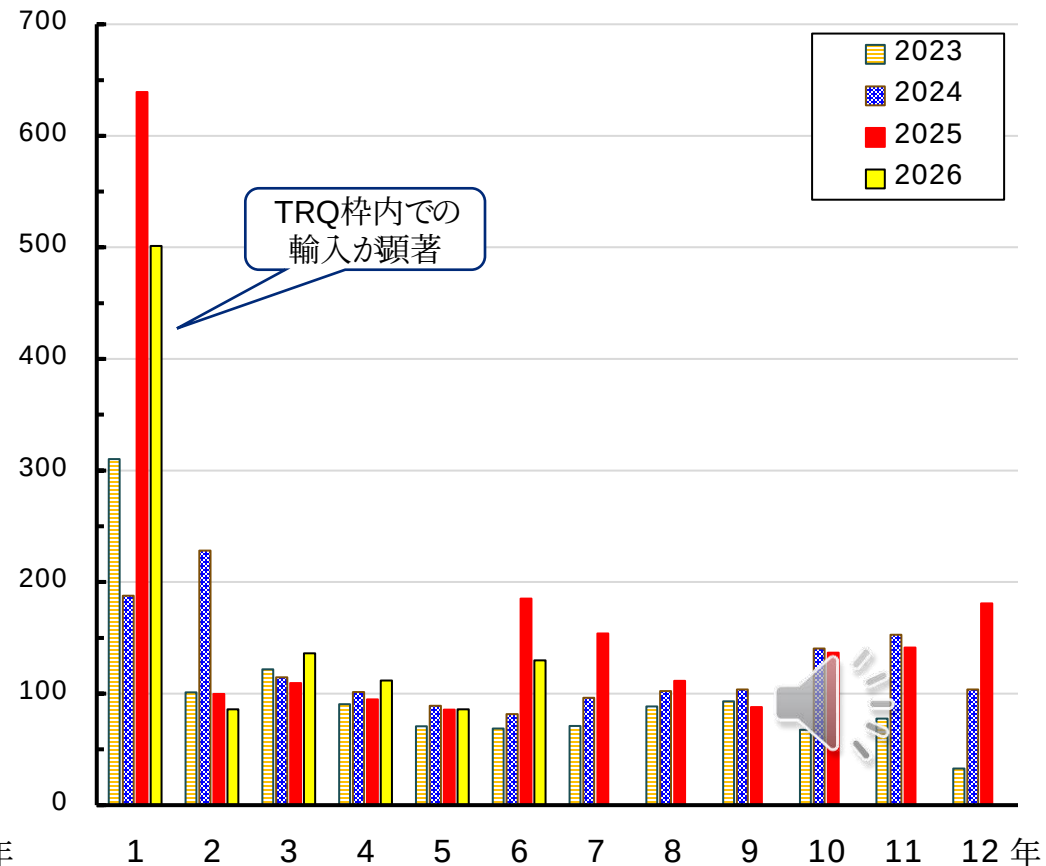
① 日本産牛肉の米国への輸入状況

- 日本が活用可能な牛肉の低関税数量枠（TRQ）の拡大やEC・小売店での販売拡大もあり、コロナ禍の2021年は1,219トンと前年比2倍以上の伸びを記録。
- 2022年は1,014トンと前年を下回ったものの、2023年は1,194トン、2024年は1,501トンと**米国内での流通・在庫量は拡大中**。2025年は約2,026トンと前年の数量を約35.0%増と大幅に上回り、過去最大を記録。
- 日本が活用する米国の「その他」の国・地域カテゴリーのTRQは、競合するブラジル産牛肉等の影響により1～3月には全量消化されている状況。そのため、**日本産和牛についても特に冷凍品が1月に集中**。

米国による日本産牛肉の輸入数量（トン）



米国による日本産牛肉の輸入数量の月別推移（トン）



02 日本産牛肉の米国内での流通および課題

① 日本産牛肉の米国への輸入状況

米国およびEUに輸出対応可能な食肉処理施設の配置について

対米国輸出施設：17施設

対EU輸出施設：14施設

令和8年8月末時点

● 対米国・EU輸出可能な施設

○ 対米国輸出可能な施設

米国	EU	とちぎ食肉センター
米国	EU	群馬県食肉卸売市場
米国	EU	飛騨食肉センター (岐阜県)
米国	EU	京都市中央卸売市場第二市場
米国	EU	和牛マスター食肉センター (兵庫県)
米国	EU	ミヤチク 都農工場 (宮崎県)
米国	EU	阿久根食肉流通センター (鹿児島県)
米国	EU	ナンチク (鹿児島県)
米国	EU	サンキョーミート (鹿児島県)
米国	EU	JA食肉かごしま南薩工場
米国	EU	北海道畜産公社十勝工場 十勝総合食肉流通センター(第3工場)
米国	EU	いわちく

米国	EU	大分県畜産公社
米国	EU	IHミートパッカー(株)十和田ビーフプラント
米国		熊本畜産流通センター
米国		ミヤチク 高崎工場 (宮崎県)
米国		佐賀県畜産公社※

※今後EU向けの認定申請予定



施設整備後申請予定

大阪市中央卸売市場
南港市場

北海道和牛マスター
食肉センター

(参考) 主要な輸出国・地域別の牛肉の輸出施設認定状況

	香港	台湾	米国	シンガポール	EU	タイ	マカオ
施設数	15	30(1)	17	21(1)	14	88	79

※()内の数値は、非併設食肉処理施設の認定数であり、表中の施設数には含まない。

02 日本産牛肉の米国内での流通および課題

① 日本産牛肉の米国への輸入状況

米国の各国・地域に対する牛肉TRQの数量と消化状況（2025年まで）

国・地域	TRQ数量（トン）	消化数量（トン） （消化率（％））	TRQ内関税	TRQ外関税
カナダ	数量枠なし	—	無税	—
メキシコ	数量枠なし	—	無税	—
豪州	数量枠なし注	—	無税	—
ニュージーランド	213,402	171911.8 (80.56%)	4.4セント/kg	26.4%
アルゼンチン	20,000	19312.2 (95.6%)	4.4セント/kg	26.4%
ウルグアイ	20,000	18853.6 (94.3%)	4.4セント/kg	26.4%
その他	65,005	1月17日に全量 消化	4.4セント/kg	26.4%

ブラジル、パラグアイ、日本、オランダ等が活用



資料：米国税関・国境警備局（CBP），“Q u o Status R e p r o t 2025年12月29日時点

注：豪州に対しては、WTOに基づく数量枠（378,214トン）と豪州・米国自由貿易協定（AUSFTA）の無関税枠の合計が本来のTRQ数量となるが、豪州からの輸出数量に比べて多いことと、2023年からは枠外の関税率も撤廃されているため、実質的に無税で輸出できる状況となっている。

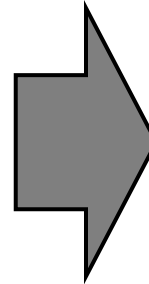
02 日本産牛肉の米国内での流通および課題

① 日本産牛肉の米国への輸入状況

米国の牛肉TRQの数量の変更概要（2026年1月1日から運用開始）

○変更前（25年12月31日まで）

国・地域	TRQ数量（トン）
カナダ	数量枠なし
メキシコ	数量枠なし
豪州	数量枠なし
ニュージーランド	213,402
アルゼンチン	20,000
ウルグアイ	20,000
その他	<u>65,005</u>



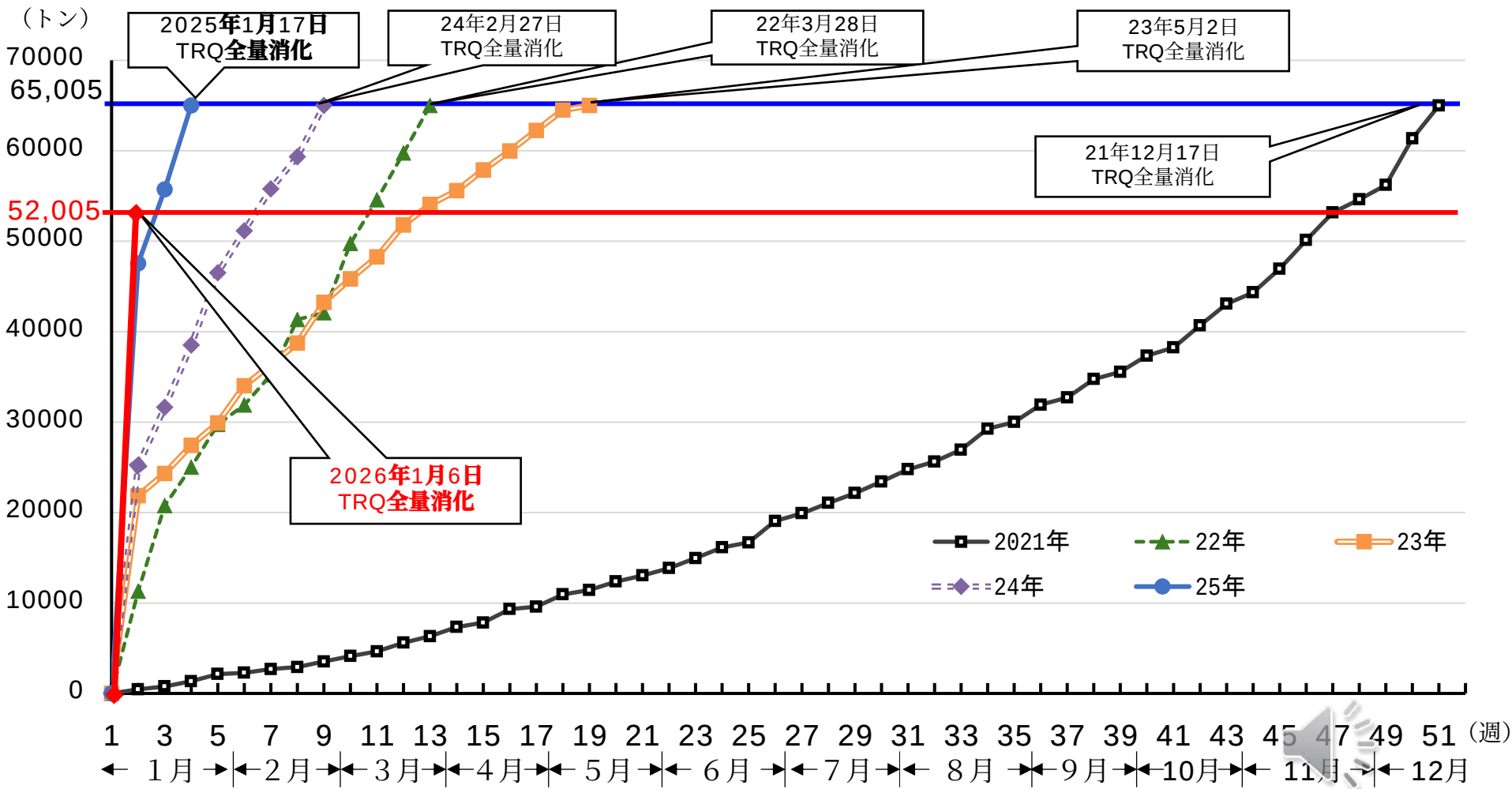
○変更後（26年1月1日から）

国・地域	TRQ数量（トン）
カナダ	数量枠なし
メキシコ	数量枠なし
豪州	数量枠なし
ニュージーランド	213,402
アルゼンチン	20,000
ウルグアイ	20,000
英国	<u>13,000</u>
その他	<u>52,005</u>

02 日本産牛肉の米国内での流通および課題

① 日本産牛肉の米国への輸入状況

TRQの「その他」カテゴリーの国・地域における消化状況

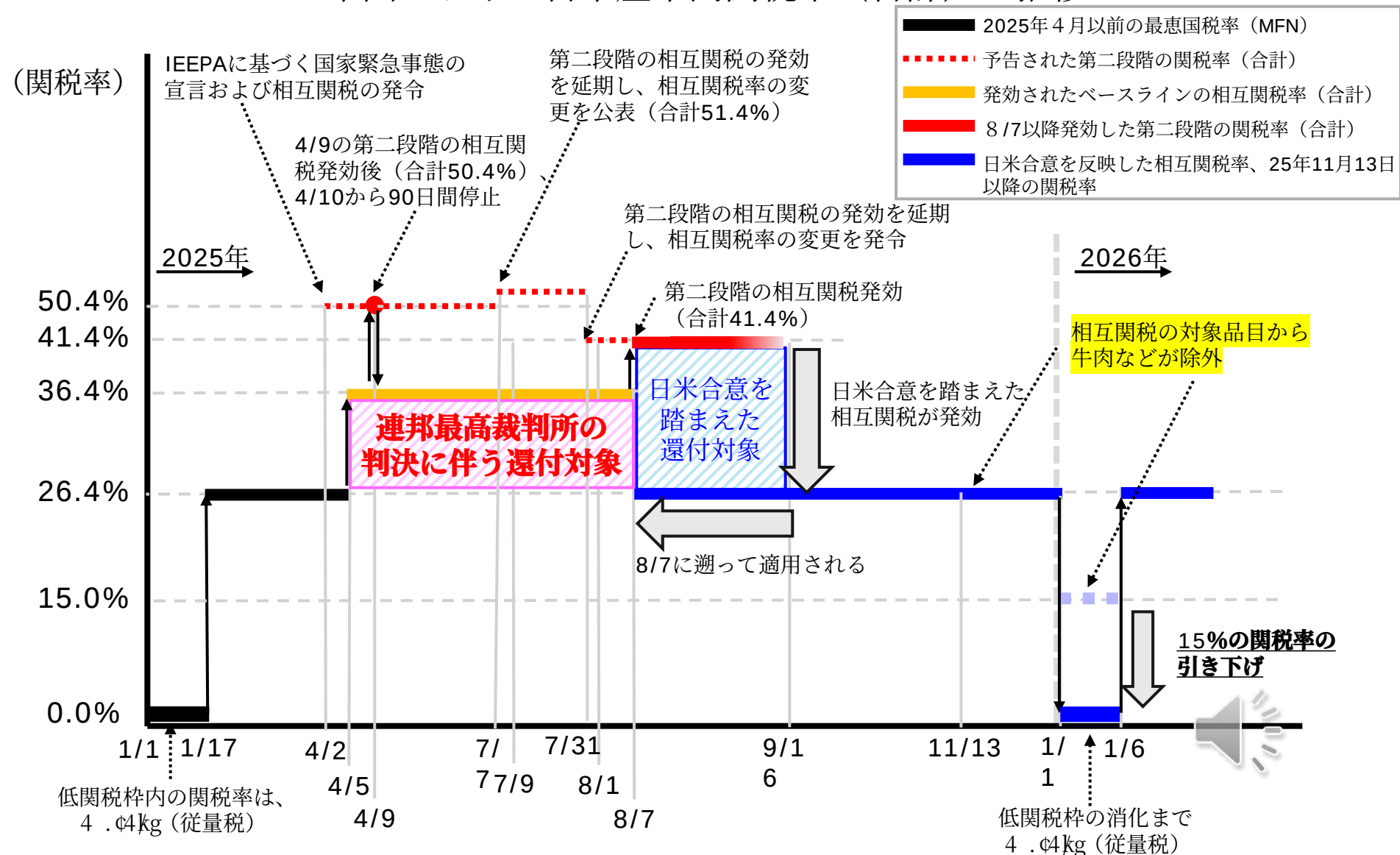


資料：US Customs and Border Protection, “Q u oStatus Re port”

02 日本産牛肉の米国内での流通および課題

① 日本産牛肉の米国への輸入状況

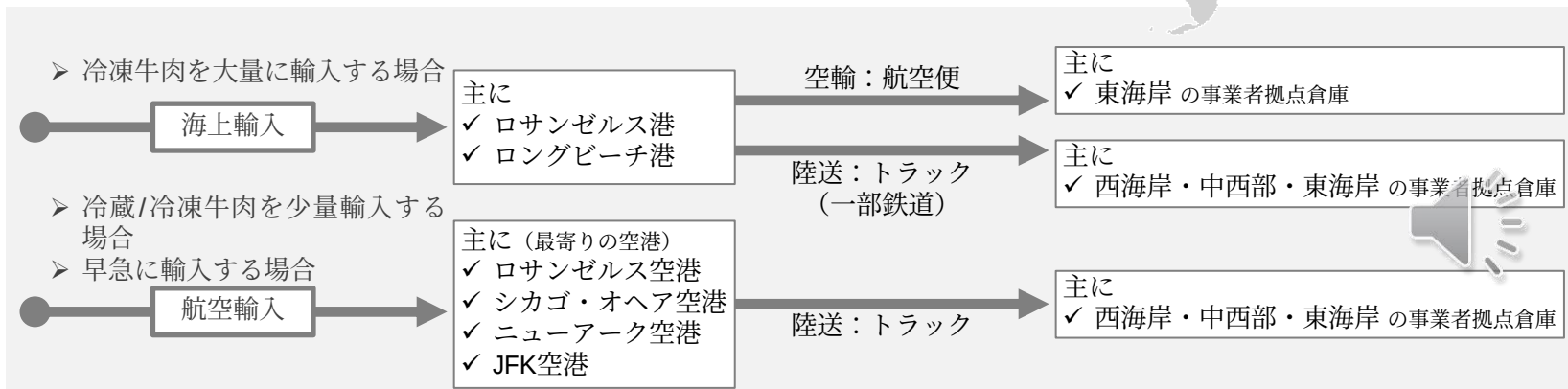
米国における日本産牛肉関税率（合計）の推移



02 日本産牛肉の米国内での流通および課題

① 日本産牛肉の米国への輸入状況

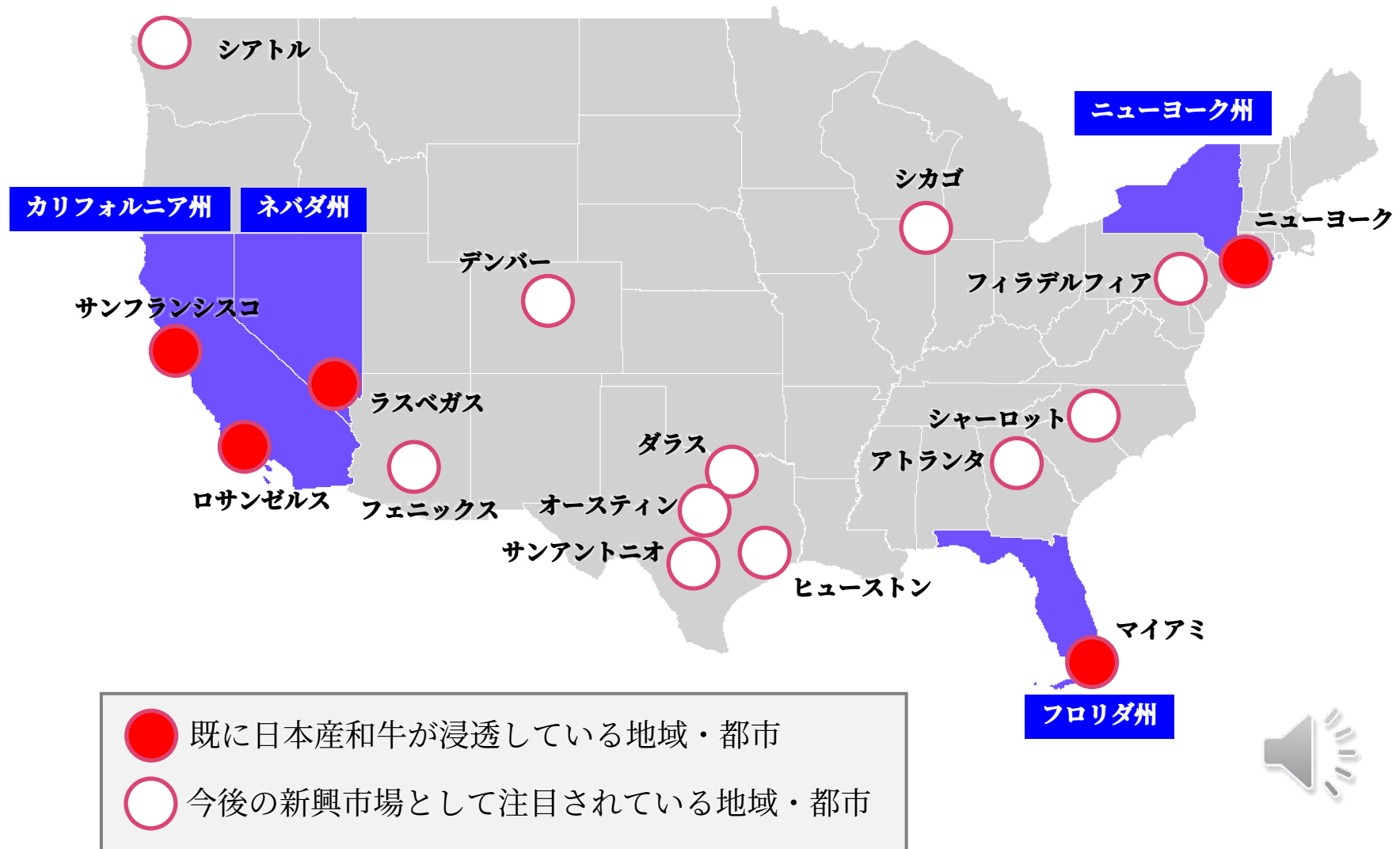
日本産牛肉の輸入経路と輸入後の流通経路（イメージ）



02 日本産牛肉の米国内での流通および課題

① 日本産牛肉の米国への輸入状況

米国における日本産牛肉の主な消費地と今後の新興市場



02 日本産牛肉の米国内での流通および課題

① 日本産牛肉の米国への輸入状況

(参考) 日本産和牛の販売・消費形態の例



ステーキ用のロイン系部位 (右側)
(ニューヨーク州内高級食材店)



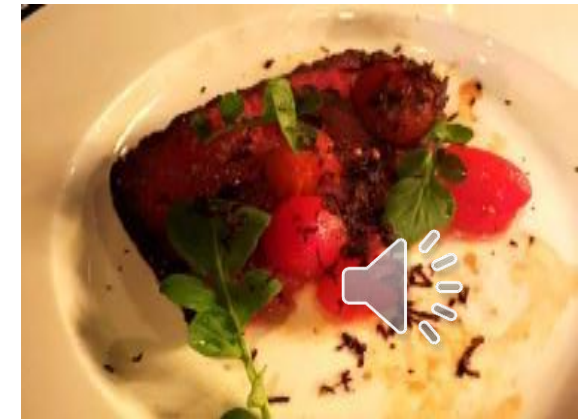
精肉コーナーで販売されるトライティップ (トモサンカク)
(カリフォルニア州内アジア系スーパーマーケット)



リブローズを使ったステーキ (イベント用)
(イリノイ州内高級レストラン)



炙った和牛を用いた寿司
(ニューヨーク州内寿司店)



しんたまを使ったスモーク (イベント用)
(イリノイ州内高級レストラン)

02 日本産牛肉の米国内での流通および課題

② 商流拡大に向けた課題

主要消費地における日本産和牛の需要の伸び悩み

- ✓ 日本政府、都道府県、業界等によって、ロサンゼルス、サンフランシスコ、ニューヨーク、マイアミ、ラスベガスといった主要消費地でプロモーションを実施してきた結果、日本産和牛の輸入量が増加。
- ✓ しかしながら、直近では大都市圏では実需者への供給は飽和状態に近づいており、日本産和牛同士での競合や価格競争が発生するなど、当初のような大幅な伸びは期待できない。

ロイン系部位が高価過ぎるため事業者や消費者の購入意欲が高まらない

- ✓ 高級牛肉を取り扱う外食・小売事業者からも「日本産和牛は高価過ぎて手に余る」との声。
- ✓ 消費者は、ホリデーシーズン、誕生日、記念日などの「特別な日」に高級牛肉を消費する傾向にあるものの、その中でも高価格帯の日本産和牛はターゲット層が限定的。

➤ 日本産和牛の輸出促進を継続するために必要な考え方

01 新たな消費地の開拓

- ✓ 日本産和牛の流通量が多いと推察される地域以外に新たな消費地を開拓。
- ✓ パンデミック後の人口動態等も踏まえ、
 - ・人口の多い（市場規模が大きい）地域
 - ・高所得層や高級レストランが多い地域
 - ・観光客が多い地域
 - ・和牛に関心を持つディストリビューターがいる地域がターゲットになり得る地域。
- ✓ 新興市場に対しては確実な流通体制を構築するとともに、新たな顧客に対しては特にきめ細やかなカスタマーサポートを構築することが重要。

02 非ロイン系部位の需要創出

- ✓ 日本産和牛の価格に幅を持たせ、事業者や消費者に価格帯の選択肢を付与。
- ✓ 非ロイン系部位を取り扱うアジア系・ヒスパニック系事業者も重要なターゲットとなり得る。
- ✓ 非ロイン系部位を取り扱いづらい米系事業者への普及も模索する必要がある一方で、新規市場への拡大についてはまずはロイン系の流通量が十分確保されることが重要。



02 日本産牛肉の米国内での流通および課題

② 商流拡大に向けた課題

日本産和牛の米国内での商流・流通のイメージ

【日本産和牛の流通にかかわる事業者の事業形態】

○輸入・ディストリビューター

- ✓ 日系輸入・ディストリビューター
 - ・日本国内に本社を置く食肉大手の関連企業
 - ・独自に米国に本社を置く食肉輸入企業
- ✓ 非日系輸入・ディストリビューター
 - ・米系卸大手のグループ企業
 - ・米系食肉輸入企業
 - ・米系食肉加工業者兼配送業者 等

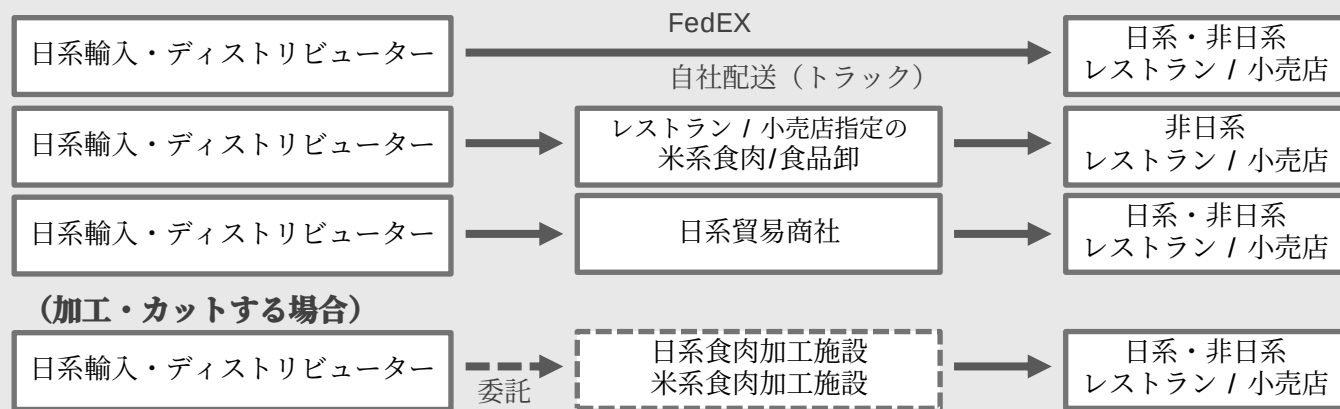
○レストラン

- ✓ 高級日本食レストラン
- ✓ 寿司店
- ✓ 焼肉店 / 韓国式焼肉店
- ✓ ステーキハウス
- ✓ 高級洋食店

○小売店

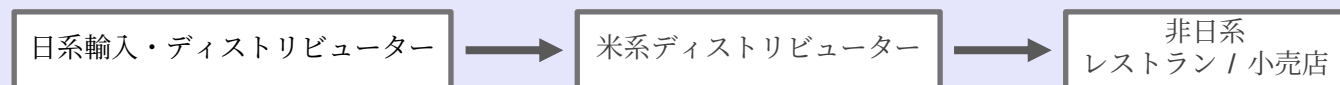
- ✓ 日系スーパーマーケット
- ✓ 高級米系スーパーマーケット
- ✓ 米系倉庫型スーパーマーケット
- ✓ 精肉店
- ✓ ECサイト

主流の流通形態



増加している流通形態

上記の流通形態に加え、日系輸入・ディストリビューターから米系ディストリビューターへのアプローチまたはその逆のアプローチによって、米系食肉/食品卸への販売が増加傾向。

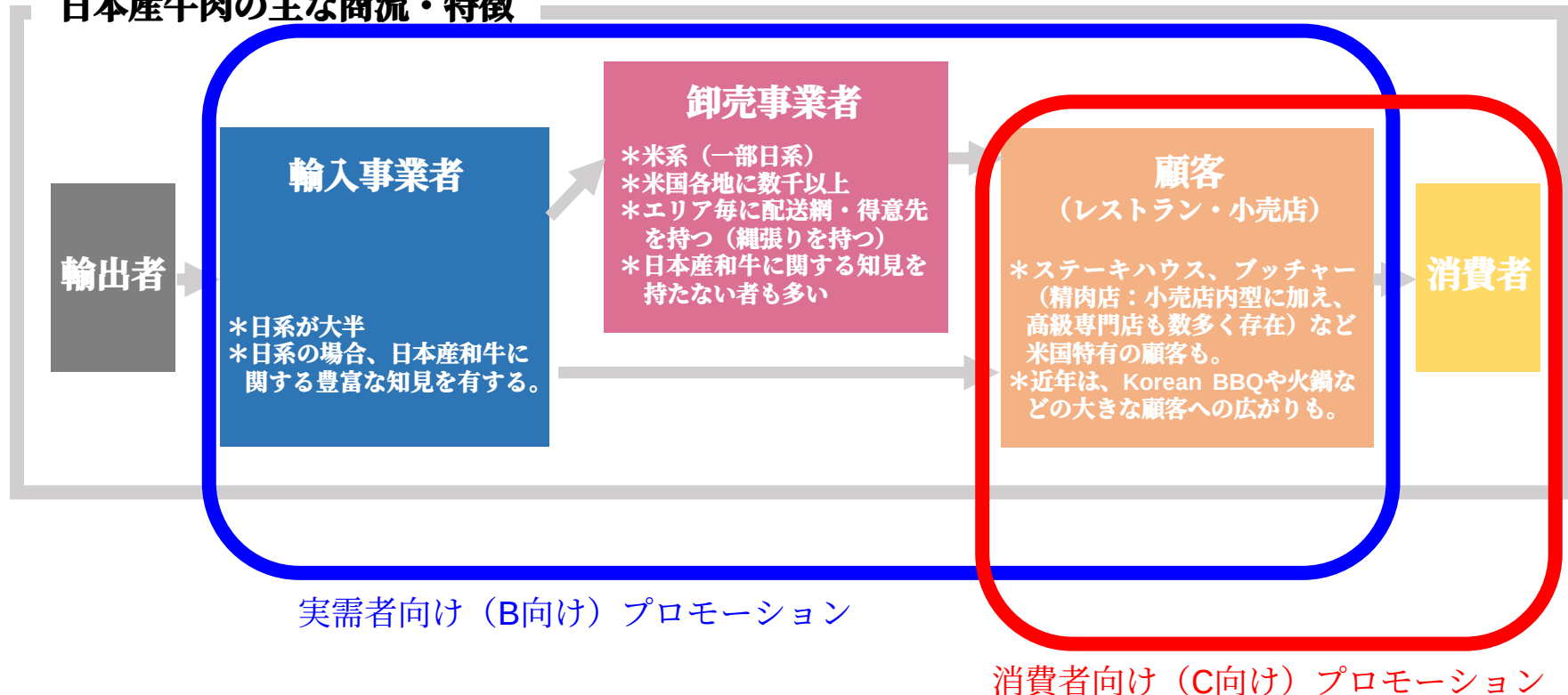


02 日本産牛肉の米国内での流通および課題

② 商流拡大に向けた課題

日本産和牛の輸出拡大に向けた個別商流に着目したプロモーション

日本産牛肉の主な商流・特徴



プロモーションの継続的な実施に加え、TRQの改善や
日本産和牛の業界内での地位確立・向上に向けた取り組みも重要



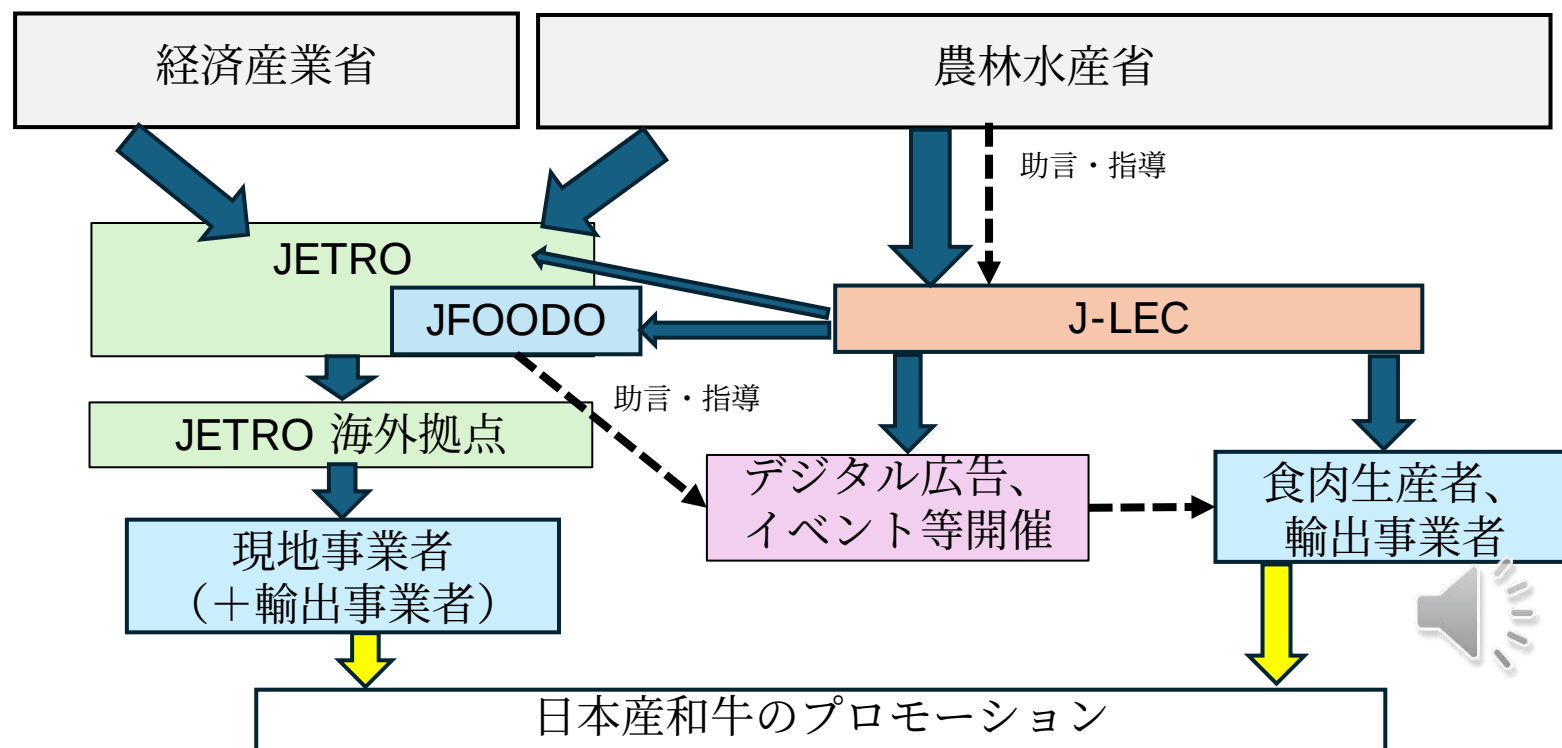
02 日本産牛肉の米国内での流通および課題

③ 関係機関および業界の取組

日本産和牛のプロモーションを行う主な関係機関と事業の流れ（2025年度）

日本産和牛の輸出促進にかかわる機関としては主に下記の4つ。自治体・生産者・輸出事業者が一体となったコンソーシアムによるプロモーションや在米日本大使館による日米当局間との交渉、規制情報の発信などが行われている。

- (1) 農林水産省：プロモーションに関する費用の支出、全体的な方針の策定、大使館における活動の調整などを実施。
- (2) 日本畜産物輸出促進協会(J-LEC)：日本の会員と調整し、オールジャパンでのプロモーションを実施。
- (3) 日本貿易振興機構(JETRO)：現地の展示会への出展や輸出プラットフォーム運営、個別商流への支援などを実施。
- (4) 日本産食品海外プロモーションセンター(JFOODO)：品目・地域を絞った特に消費者向けプロモーションを実施。

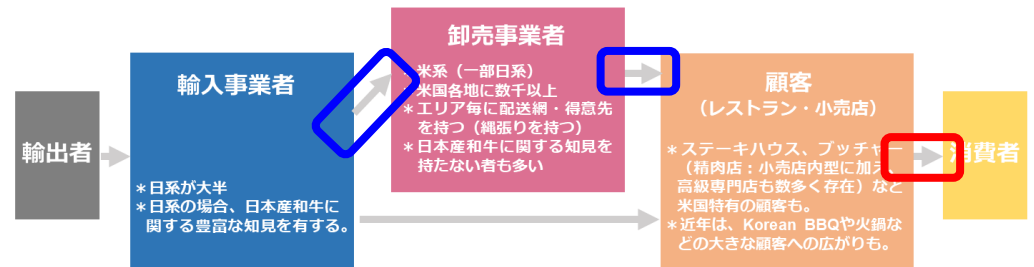


02 日本産牛肉の米国内での流通および課題

③ 関係機関および業界の取組

特定の輸入者・卸（・顧客）と連携して、**他商流への悪影響を避けつつ、既存の商流を太くする**

日本産牛肉の主な商流・特徴



日本産和牛に関する顧客への教育活動

- 実施地域：ニュージャージー州、オクラホマ州、ワシントンDC
- 主な内容：基礎セミナー、カッティングデモ、試食提供、商談
- イベント対象者：卸の顧客（レストラン・小売店）
- 成果
 - ・商談件数（参加バイヤー数）：138件（名）
 - ・成約件数：15件



シェフによる
利益率の高い
メニューの提案



卸売事業者による
売込み

日本産食材サポーター店との協力

- 実施地域：ECサイト（2つ）インディアナ州（1店舗）カリフォルニア州（3店舗）
- 主な内容：新メニュー提供、PRイベントの開催等
- イベントの対象者 一般消費者



提供された
メニュー



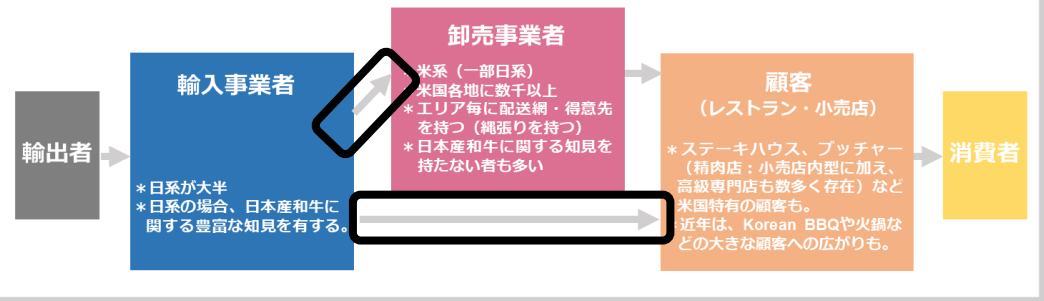
PRイベントの
様子

02 日本産牛肉の米国内での流通および課題

③ 関係機関および業界の取組

公平性に留意しながら、**新たに日本産和牛を取り扱う卸売事業者を開拓**

日本産牛肉の主な商流・特徴



Annual Meat Conference（AMC）への出展

- AMC：全米唯一の食肉専門の展示会・商談会
- 内容：輸入事業者2社の出展を支援
（24年度は日本産和牛全体のPRを目的としたブース出展のみ）
- 参加者：食肉専門の卸、小売店、行政関係者等
- 成果
商談数：10件以上（成約が見込めるもののみを抽出）



日本産和牛の
ブース



各輸入事業者から
試食が提供

新規日本産和牛バイヤー招聘

- 内容：J-LEC主催で、米系卸と教育機関を日本に招聘
* 訪問先：食肉学校、肥育農家、民間と畜場 等
- 招聘者：日本産和牛未取扱いの米系卸5社
- 候補者を募集するため、食肉加工業界が発信するネット記事等で周知を実施。

食肉学校訪問の
様子

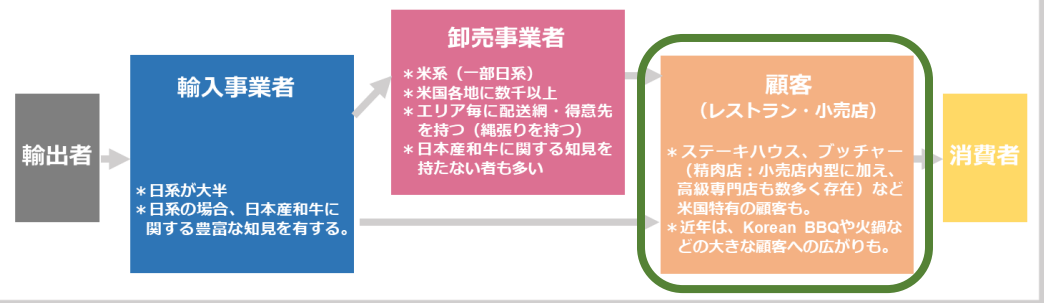


02 日本産牛肉の米国内での流通および課題

③ 関係機関および業界の取組

これまでの事業において、和牛に特化した活動で得られた卸売事業者等とのつながりや輸入業者とのコネクションを活用し、今年度の事業で更に裾野を拡大

日本産牛肉の主な商流・特徴



シェフ等養成機関との連携を拡大

- 内 容：事業を通じてコネクションを築いた教育機関と連携し、日本産和牛に関連した教育コースを実施。
- 連携先：Culinary Institute of America（CIA：著名な調理学校でNY、CA、TXにキャンパスが存在）、そしてRange Meat Academy（オンラインスクール）において日本産和牛に関する講座を実施。



（参考）新興市場における顧客への教育活動

- 内 容：レストランのシェフや小売事業者の調達責任者などを招待し、日本人講師によるカッティングデモンストレーション、米国人シェフによる日本産和牛を活用したメニューの紹介などを実施。J-LEC会員企業と実需者によるネットワーキング・商談等が行われた。
- 開催地：イリノイ州**シカゴ**、アリゾナ州**フェニックス**、テキサス州**ダラス**

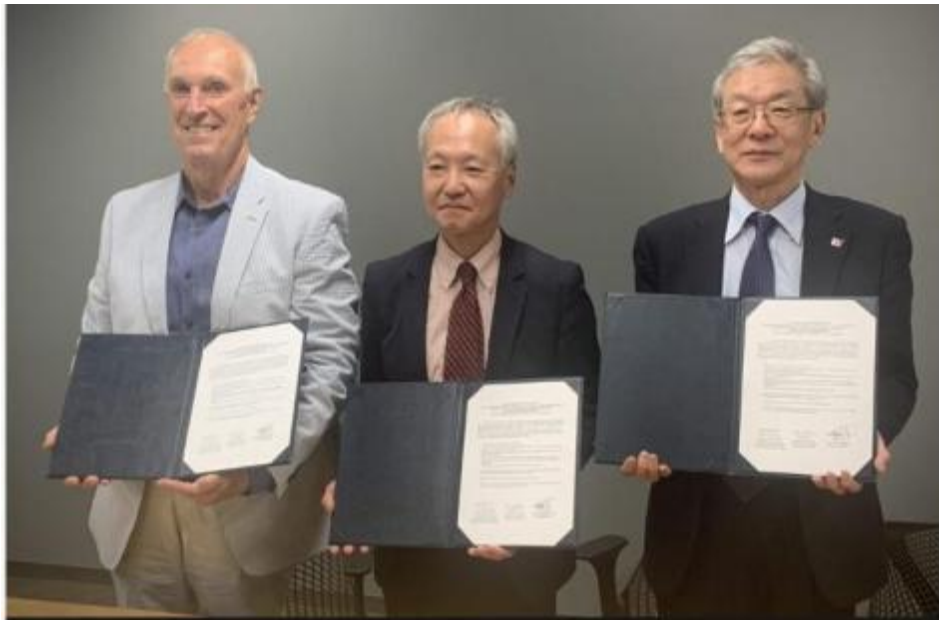


03 Japanese Wagyu Partnersの立ち上げと、 米国内での活動について



03 Japanese Wagyu Partnersの立ち上げと、米国内での活動について

- ・ 農林水産省畜産局と**フィリップ・セング**USMEF（U.S. Meat Export Federation：米国食肉輸出連合会）名誉会長が、輸出拡大の課題解決に向けて意見交換を継続。
- ・ 農水省畜産局の要望も踏まえ、セング名誉会長が、日本産和牛肉のさらなる米国での普及を目的とする非営利団体Japanese Wagyu Marketing Institution（JWMI）を立ち上げ
- ・ 2024年6月にJWMIと、農林水産省畜産局、認定品目団体畜産物輸出促進協会（J-LEC）が、連携しながら取組を進めていく基礎として、協力覚書を締結。



2024年6月デンバー、左からセングJWMI代表、渡邊畜産局長（当時）、川島畜産物輸出促進協会専務（当時）



2026年5月ワシントンD.C.において、日米業界関係者による周知交流会「Strategic Partnership Launch and Industry Meeting」開催。

03 Japanese Wagyu Partnersの立ち上げと、米国内での活動について

▶ プラットフォームとなるウェブサイトの立ち上げ

- さまざまな資金を活用した活動がしやすいよう、**有限会社Japanese Wagyu Partners (JWP) を立ち上げ、情報発信のプラットフォームとなるウェブサイト開設。**
- ウェブサイト活用し、以下について発信。
 - ✓ 日本産和牛肉の正しい知識科学的データ（科学的データは日本からインプット）
 - ✓ 和牛肉の利用法の啓発 等



Connection, Consolidation and Coordination

Our services focus around three key themes: Connection, Consolidation and Coordination.



Connection

JWP builds and facilitates links with relationships with meat importers, distributors, and their food service and retail customers. Additionally, JWP collaborates with beef industry groups and U.S. and Japanese government policymakers to improve market conditions. All these excursions, and the services we offer help create new market opportunities to increase sales, distribution and consumption of Japanese Wagyu.



Consolidation

Japanese Wagyu importers, industry experts and marketing partners including USGS and The Japan Beef Cattle Institute offer valuable educational resources to promote and communicate the unique qualities of Japanese Wagyu. JWP serves as a centralized access point, providing guest experiences to many resources, including industry experts and local market trends, culinary experts, videos, sales materials and much more.



Coordination

As a U.S.-based team of experts and consultants, JWP plays a vital role in identifying and coordinating opportunities to expand the distribution, sales and consumption of Japanese Wagyu. Leveraging our partnership with Japanese government organizations, Colorado State University, the USDA and others, we actively address importation challenges, including customs inspection discrepancies and tariff or quota issues.

Latest Past Events

May 16 2022

May 16 @ 9:00 am - 5:00 pm

National Restaurant Association Show

McCormick Place, 2301 S. St. Martin Luther King Jr. Blvd, Chicago

Join us and 10,000 at this year's National Restaurant Association Show, May 14-19 at McCormick Place, Chicago, IL. With two large 30' x 30' booth spaces (#13121 and #13131), you'll easily find us within the Global Food Expo area located in the Lakeside Center. Two of our importers and the Kagayama Meat Export Partnership will be...



March 3 2022

March 3

Annual Meat Conference (Japan External Trade Organization Exhibit)

Annual Meat Conference OF TMO EXHIBIT 201, West Hall South, National Harbor 20745

The Japan External Trade Organization (JETRO) is a Japanese government organization that aims to promote trade and investment between Japan and the rest of the world. At JETRO 2022, two Japanese companies, Jip Hara and Zan-ichi, will be exhibiting Japanese Wagyu beef, which boasts the highest quality in the world. Visit us at Prince George's...



Helpful Resources for Importers, Distributors & Customers



Trade Policy, Customs and Regulatory Updates

Up-to-date Information on the TRQ and Import Regulations

- [FSIS Guidance for Importing Beef Products into the U.S.](#)
- [Japanese Wagyu: The Case for Reciprocal Trade \(Meetingplace\)](#)
- [Japanese Beef Faces Barriers in the U.S. \(The Mainichi\)](#)
- [Japanese Wagyu in the American Market \(Asia Policy Point\)](#)
- [The Price of Craft \(Humans of Wagyu\)](#)
- [Modification of the WTO Tariff-Rate Quota Volumes for Beef](#)
- [Implementing the United States and Japan Trade Agreement](#)



Industry News, Research and Insights

Useful Japanese Wagyu News, Market Research and Industry Data

- [Record High U.S. Imports of Japanese Wagyu in 2025](#)
- [Oleic Acid and the Health Benefits of Japanese Wagyu](#)
- [Japanese Wagyu Featured at Annual Meat Conference \(English\)](#)
- [Japanese Wagyu Featured at Annual Meat Conference \(Japanese\)](#)
- [Special Lecture on Japanese Wagyu \(Culinary Institute of America\)](#)
- [Importer WagyuMan Expands Distribution of Secondary Cuts](#)



Educational Resources, Logo files and Sales Materials

View and Download Sales and Marketing Materials

- [The Universal Wagyu Logo Mark \(J-LEC\)](#)
- [The Special Characteristics of Japanese Wagyu Beef](#)



Japanese Wagyu Quality and Traceability

Helpful Technical Resources

- [Cattle Individual Identification Number Lookup](#)

03 Japanese Wagyu Partnersの立ち上げと、 米国内での活動について

➤ 通関トラブルの解決

- 米国内の通関時、TRQ制度に伴う関税等の徴収に加え、下記のような通関トラブルが発生。
 - ✓ 通関後、USDAによる検査時に開封されたストリップロイン（写真左）と開封されなかったストリップロイン（写真右）
 - ✓ 真空状態の解除で品質低下、変色。
 - ✓ 部位にもよるが、廃棄処分となってしまった場合、商品販売価値として数千ドル程度の損失が発生。
- 通関時検査の際の牛肉梱包の開披によるロス 検査官による通関可否のばらつき等の課題解決に向けたインポーターへの聞き取り 通関検査員の教育に向けた調査活動など実施



写真：事業者の協力によりJETRO撮影

04 今後の展望・活動の方向性



04 今後の展望・活動の方向性

<日本産和牛のプロモーション>

- ・ **個別の商流に留意しながらB向け、C向けの教育活動や新規顧客開発**を継続。
 - 各種事業を活用した日本産和牛教育事業、日本産食材サポーター店との協力、中西部を中心とし新規バイヤ招聘、**日系インポーター・ディストリビューターの連絡先リスト提供**など
- ・ 米系商流に入り込むべく、食肉事業者や食品事業者が集う場でのプレゼンス向上を狙う。
 - 米国内の**業界団体が開催する会合やセミナーにおけるプレゼンテーション**の実施や継続的な交流による**ビジネスイベントの開催**など
 - 日本産和牛が活用できるような米国国内におけるブランディングプログラムなどの検証を行い、**他国産Wagyuとの差別化**の検討。
- ・ **将来的な実需者へのアプローチ**も継続。
 - 全米に影響力をもつシェフ等養成機関と連携し、シェフや精肉店、食肉加工業界に入る将来的な実需者に対して**日本産和牛全体のプロモーション活動実施**

<日本産和牛の輸出環境の整備>

- ・ **現行TRQにおける課題解決**に向けた取り組み。
 - 米国政府による**TRQの一時的な拡大**等に関する情報収集・発信。
- ・ 牛肉梱包の開披によるロス等による**通関トラブル低減**に向けた取り組み。
- ・ 米国内の食品安全を巡る規制の変化等に対する取り組み。
 - 米国政府による「米国を再び健康に」(MAHA)運動や関連する**食品添加物や包装容器の使用に関する政策**や「米国人のための食生活指針」による**食生活のトレンドの変化**等に関する情報収集・発信。

04 今後の展望・活動の方向性

(参考) 米国の牛肉TRQの一時的な拡大概要 (2026年8月27日時点)

○26年1月1日からの運用 (**通常**)

国・地域	TRQ数量 (トン)
カナダ	数量枠なし
メキシコ	数量枠なし
豪州	数量枠なし
ニュージーランド	213,402
アルゼンチン	20,000
ウルグアイ	20,000
英国	13,000
その他	52,005

ブラジル、パラグアイ、日本、オランダ等が活用

○26年9月1日からの運用 (**TRQ一時拡大**)

国・地域	TRQ数量 (トン)
カナダ	数量枠なし
メキシコ	数量枠なし
豪州	数量枠なし
ニュージーランド	213,402
アルゼンチン	20,000 2月～12月の間、挽肉材として 赤身トリミング材を対象に 合計80,000追加
ウルグアイ	20,000
英国	13,000
その他	52,005 9月1日～11月30日の間、 挽肉材として、 赤身トリミング材を対象に 合計300,000追加

ご清聴ありがとうございました

下記URLからアンケートにご協力をお願いします。

<https://www.alic.go.jp/consumer/foods/event.html>

日本貿易振興機構（ジェトロ）
ニューヨーク事務所
中島 勝紘



Katsuhiro_Nakajima@jetro.go.jp



565 Fifth Avenue, 4th Floor, New York, NY
10017, U.S.A.

世界の
ビジネス関連情報
を毎日掲載！

閲覧無料

JETROビジネス短信



<https://www.jetro.go.jp/biznews/>

ALIC海外情報

海外の畜産関係の
情報を随時更新



<https://lin.alic.go.jp/alic/week/week.htm>



■ ご注意

本日の講演内容、資料は情報提供を目的に作成したものです。主催機関および講師は資料作成にはできる限り正確に記載するよう努力しておりますが、その正確性を保証するものではありません。本情報の採否はお客様のご判断で行ってください。また、万一不利益を被る事態が生じても主催機関及び講師は責任を負うことができませんのでご了承ください。

ホームページバナー広告募集します

- 掲載料 :10,000円／月（縦60ピクセル、横150ピクセル）
- 申込み期間：随時
- 申込み方法：メールにて受付

申込み方法や期限などの詳細は機構ホームページでご確認ください。



バナー広告掲載イメージ
トップページ右上部のバナー広告コーナーに掲載

総ページビュー数
1135万件以上！
（2025年度実績）



広告募集ページ

総セッション数
630万件以上！
（2025年度実績）

気になる情報をメルマガでお届け！



メルマガ登録はこちら